

# グローバル・フード・バリューチェーン構築に向けた取り組み状況について

2014年4月25日

JICA農村開発部  
武市 二郎

# JICAにおける 農業開発・農村開発の目的

- 食料の安定供給
- 農村貧困の削減と経済成長
- 農業の多面的機能

JICA農業・農村開発に関するポジションペーパ  
<http://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach.html>

# 経済成長への貢献

- ・ 農業の長いバリューチェーン  
生産資材→生産者→集出荷→貯蔵→  
→加工・流通→販売→消費者
- ・ 補野産業を加えた拡大農業部門が経済  
に占める割合=農業単独の1.5倍（中所  
得国）
- ・ バリューチェーン全体が機能すれば大  
きな経済効果と雇用効果が期待できる

# 発展段階に応じたアプローチ

| 発展段階  | 基本的スタンス  | 対象課題                                 |
|---|--|--------------------------------------|
| <p>慢性的な栄養不足問題の存在<br/>海外からの食料援助を受ける諸国</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">LDC</div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>脆弱な体制を考慮し、オーナーシップ、自助努力等の基本原則は弾力的に考え、人道的見地から食料供給の改善等目に見える成果の発現まで技術協力、無償資金協力を重点的に行う。</li> </ul>             | <b>食料の自給率向上、<br/>安定供給</b>            |
| <p>商業的農業への移行段階にある諸国</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">低・中所得国</div>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>オーナーシップの意識を醸成しつつ、必要に応じて無償資金協力は継続するものの、有償資金協力によるプロジェクト実施を称揚する。</li> <li>次のステップへの移行に関する政策対話をを行う。</li> </ul> | <b>生産者と消費者の双方の生活の安定化</b>             |
| <p>商業的農業を中心的に行いうる諸国</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">中所得国～中進国</div>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>オーナーシップを重視しつつ、「卒業」に向けて民間セクターの活動を側面的に支援。</li> <li>日本の食料安全保障をも視野に入れた支援を通じて関係国間のネットワークを維持する。</li> </ul>      | <b>農業の競争力を確保、<br/>輸入国の食料安全保障への貢献</b> |

# 流通プロセスの課題とニーズ

中間層の増加: インドネシア4%(2000年)→39%(2008年)

需要者の近代化: スーパー、コンビニ、食品加工業の増加

|         |      | 課題項目  |
|---------|------|---|
| 1. 生産段階 | ODA  |   |
|         |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家の組織化</li> <li>生產品質に関する意識の低さ</li> <li>市場価格、需要動向等情報不足</li> <li>長い決済期間</li> <li>生産性向上のための資金不足</li> <li>劣悪な道路インフラ</li> </ul> |
| 2. 流通段階 | 官民連携 | <ul style="list-style-type: none"> <li>長く複雑な流通プロセス(高コスト)</li> <li>ポスト・ハーベスト・ロス</li> <li>予冷・保冷倉庫の不足</li> <li>バラバラな品質</li> </ul>                                    |
| 3. 消費段階 |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>不安定な小売価格</li> <li>食の安全管理</li> </ul>  |

# アフリカにおける事例

[http://www.jica.go.jp/topics/person/20130507\\_01.html](http://www.jica.go.jp/topics/person/20130507_01.html)

- SHEP(Smallholder Horticulture Empowerment Project)は、ケニアで2006年から3か年実施したプロジェクト
- 市場志向型アプローチによる小規模園芸農家に対する支援。
- 農家の市場に対する意識を「作ってから売る」から「売るために作る」へ変革。
- 農家の所得が倍増。
- "Farming as Business"を進める農業省に対し、実践的な方法を提供。



## アジアにおける事例

### ベトナム農産物の生産体制および制度運営能力向上計画

<http://www.jica.go.jp/project/vietnam/009/outline/>

背景：農薬や化学肥料等の使用量増大→農産物への残留や微生物による汚染など、農産物の安全性に関する懸念

活動：安全作物生産に関する啓発普及活動（使った農薬や肥料の量、作業工程などを基準に従って記録し、開示）

# 民間連携の事例

[http://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv\\_partner/index.html](http://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html)

- ・「インドBOP層の生活改善に貢献するスマートビレッジ事業準備調査」(協力準備調査(BOPビジネス連携促進)、(NEC、NPO法人ICA文化事業協会、農業生産法人GRA))
- ・富裕層向けに高付加価値農産物を生産。BOP層を中心とする生産者の所得を向上。
- ・日本のイチゴ品種、日本の養液栽培施設、日本の栽培管理技術を組み合わせ、現地に導入。貧困層の多い農村で女性を中心に技術指導。
- ・順調に栽培、収穫ができることを確認。近郊にある5つ星ホテルと契約成立。

